

平成 19 年度当初予算 施策別概要

5 5 3 港湾の整備

(主担当部：県土整備部)

55301 人の交流を支える港湾機能の充実・強化
(県土整備部)

55302 物流を支える港湾機能の充実・強化
(県土整備部)

< 施策の目的 >

(対象) 港湾利用者が

(意図) 物流・人流拠点や親水空間として利用しやすい港湾になっている

< 施策の数値目標 >

施策目標 項 目 (主指標)	入港船舶総トン数 (5 トン以上の船舶)	目標値	8,303 万トン(2009 年度)
		現状値	7,939 万トン(2004 年度)

県内 20 港湾における 5 トン以上の船舶の入港した総トン数

県の取組 目標項目 (副指標)	人流を目的とする係留施設(公共)の延長	目標値	926m
		現状値	436m (2005 年度)
	物流を目的とする係留施設(公共)の延長	目標値	38,031m
		現状値	37,927m (2005 年度)

< 現状と課題 >

- ・ 国際コンテナ航路をめぐる港湾間競争が激しさを増す中で、コンテナ貨物に関する日本の港湾の地位が相対的に低下しています。また、中国発着貨物の著しい伸びや中部国際空港の開港など、当県の港湾を取り巻く環境は大きく変化しています。
- ・ こうした環境変化に対応するため、産業を支える物流機能の充実強化、港を活用した交流機能の充実強化などが港湾に求められています。このため、増大する貨物量等に対する整備を進めるとともに、地域が主体的に取り組む観光振興を支援し、地場産業である水産業を支える港づくりを進めていく必要があります。
- ・ 発生が危惧されている大規模地震への備えとして、施設の耐震化や災害発生時の対応について関連企業や他港湾との連携等を含めた体制強化などの確な対応が求められています。

< 平成 19 年度 の取組方向 >

四日市港において、長期的な開発、利用及び保全に関しての指針となる港湾計画の改訂や円滑な物流ルートを確保する臨港道路の整備などを進め、物流機能の高度化・効率化に向けた取組を進めます。

鳥羽港において、港湾機能の再生を進めるための小型船だまりの整備を進め、地域が主体的に取り組む観光振興の支援を進めます。津松阪港において、小型船だまりの整備を進め、地場産業の振興に向けた取組を進めます。浜島港において、耐震強化岸壁の整備を進め、発生が危惧されている大規模地震に備える取組を進めます。

港湾緑地を含む既存施設について、安全で快適な利用ができるよう、適切な維持管理を行い、港湾利用者へのサービスが向上するよう努めます。

<主な事業>

四日市港振興事業費【基本事業：55302 物流を支える港湾機能の充実・強化】

当初予算額： 1,991,621千円 2,021,724千円

事業概要：四日市港管理組合への負担金（長期的な開発、利用及び保全に関する指針となる港湾計画の改訂や円滑な物流ルートを確保する臨港道路の整備等）

国補港湾改修事業【基本事業：55301 人の交流を支える港湾機能の充実・強化】

当初予算額： 1,625,000千円 1,389,500千円

事業概要：鳥羽港の小型船だまり、津松阪港の小型船だまり、浜島港の耐震強化岸壁の整備を進めます。

公共土木施設維持管理費（港湾関係分）

【基本事業：55301 人の交流を支える港湾機能の充実・強化】

当初予算額： 82,942千円 98,432千円

事業概要：県管理港湾 19 港において、港湾施設の機能が十分発揮できるよう施設の維持・補修、浚渫、港湾緑地の維持管理を行います。